

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070500448		
法人名	宗教学会 天理教市丸分教会		
事業所名	グループホーム陽気		
所在地	飯田市鼎下山270-1		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.nsyakyo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?iigyoo=2070500448
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク		
所在地	長野県松本市巾上9-9		
訪問調査日	平成30年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一つの家族で生活しているような環境作りと介護者と入居者一人ひとりの関わる時間を多く取り、入居者と介護者の信頼を得る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム陽気は、天理教の教義に基づき設立され、「いつも晴天の心で陽気暮らし」を理念に掲げ、管理者、職員が理念を共有し、その実現に向けて介護している。
優れている点として、まず地域との関係性が挙げられる。管理者は長年地域で宗教に限らず福祉、地区の活動等をされてきたため繋がりが深く、現在は地区の役員、民生委員等も務める。地域と防災協定も結び災害時には相互で協力し合える体制を整備されている。また、施設内の玄関から居間、廊下、居室とすべての空間が実に家庭的な設え、雰囲気になっており、グループホームとしては、まさに自宅のような理想的で落ち着いた佇まいの施設である。職員の明るい表情、誠実な接遇も印象的な施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、職員会議を開く中で、月、木には運営理念について読み合わせを行い共有に努めている。	事務所協の見やすい場所に理念が掲示されている。毎朝行われる職員会議の月曜日と木曜日に全職員で読み合わせを行い、共有、実践に繋がられるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が、以前から地域の中にあり、地域の役職も務めている。	法人は長年地域の一員として役割を果たし、現在も管理者は地域の複数の役職を務め、地域住民の介護の相談等にも対応している。近隣の農家との付き合いから、野菜を頂く等の交流や定期的にボランティアがピアノ演奏、フラダンス等を披露しに来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護全般について、地域の人々の相談に乗っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーの方々から良い意見を頂いている。	自治会、民生委員、地域包括支援センター、家族の代表1名で、2か月に1回開催されている。	災害や施設内外の事故等のリスクマネジメント等に関連して、運営推進会議において消防署、消防団、警察等と連携を図ることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会等にも出席して、情報を取り入れている。	市町村との連携や関わりについて、日頃は、月に1回の事業所連絡会等への出席がメインになっている。	行政の担当者に施設の現状を認識して理解を深めてもらい、より連携を深めていく上でも、運営推進会議への行政の参加が期待される。

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で話し合い、身体拘束にならないように努めている。	現在、身体拘束はされていない。身体拘束に関するマニュアルがまとめられており、年に1回全職員で確認し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中はできるだけ玄関の施錠はせず職員が見守りに配慮している。対応の難しいケースが発生したら全職員及び主治医とも連携し、身体拘束をせずに済むよう模索していく予定。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度、権利擁護に関して、学ぶ機会を持ち活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時や、契約時によく説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の面会時などによく意見を聞いて、運営推進委員会等で反映させている。	ほとんどの家族が利用料の支払いに毎月訪問されるので、その際にお話を伺うようにしている。また年に6回程度開催されるピアノ演奏会等の催し物にも来られる家族がいるので、そのような機会にも話を伺い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の職員会等で、意見などを出して頂いている。	毎朝の職員会議で意見、提案を出してもらい運営に反映させている。今日の調査当日も、職員から提案された浴室の使い勝手向上に関して、業者が来て対応していた。管理者は、職員も家族の一員、との思いで接し退勤時等にも自ら声を掛け話を聞く等している。	

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に女性の就業者には、働きやすい時間帯など工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務シフトによって、あまり余裕がないが、個別で研修や勉強をして頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯伊地区グループホームの集いに参加して、勉強会をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問等を通して、本人の安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よく話を聞いて、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅訪問を通して、介護サービスについて、よく説明している。		

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、介護者、運営者の3者が、平等の立場で協力し合って生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には月一度の来訪を促し、入居者支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、知人友人の来訪を歓迎している。	馴染みの人や場所への訪問に関しては、家族の協力を得て対応している。友人や知人の来訪はいつでも歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの部屋を来訪する等して、入居者同士で話しをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の家庭訪問で本人の意向を把握し、ホームでの生活に活かしている。	まず入居前、事前の聞き取りをしっかりと行い、これまでの生活環境、生活歴等を細かく把握している。入居後は、センター方式でのアセスメントを実施し、利用者や家族からの思い、希望等の把握に努め、実際の支援に反映できるようにしている。	

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴をよく聞いて、入居後の生活に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者夫妻が住み込んでいるので、入居者の様子が把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議などでよく話し合っている。	毎朝行われる職員会議にてカンファレンスを開催、議題により時間を延長し、職員全員で介護計画についてよく話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を見て役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望や、本人の言葉によく耳を傾けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の福祉体験や、音楽のボランティア等を受け入れ、暮らしを楽しむよう努めている。		

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月に2回往診して頂き、常日頃の健康管理にアドバイスを頂いている。	かかりつけ医は本人・家族の希望を大事にしており、現在2割ほどの利用者が、入居前の主治医が継続してかかりつけ医として支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアマネージャーが看護師なので、適切な対応、早めの対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医によって入院等も早めに来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時に応じて、家族と相談し、かかりつけ医のアドバイスを受けることが来ている。	これまで20名程を施設で看取りをされてきた。マニュアルが整備されており、まず入居時に本人・家族等に説明を行い、その後、心身状態の低下に応じてかかりつけ医を交え本人・家族等と話し合いながら、方針を共有し、チームで支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師とかかりつけ医の協力で対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回避難訓練を行い、地域の方々にも協力して頂いている。	年に2回避難訓練を実施。自治会と災害時相互援助協定を結び地域との協力体制が整備されている。施設は福祉避難所にもなっているため、施設内の備蓄庫には、水や米等の食料品が約1週間分もの量が保管されている。	

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員の接遇マナーの読み合わせをして対応している。	朝の職員会議の際に、理念と同様に接遇マナーの指針の読み合わせを行い、一人ひとりの人格を尊重した接遇、対応が取れるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向をよく聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の良さを活かしてる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理、美容など、清潔を保つよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材準備をできる人から手伝って頂いている。	ユニット内の食堂ですべて手作りしている。準備や後片付け等、出来る範囲で利用者にも手伝ってもらっている。	今後について、利用者一人ひとりの力が更に生かされるように、季節や地域に馴染みのあるおやつ作り等を通して、準備、調理等を行いながら食を楽しむ機会を提供されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立など工夫し、水分摂取量にも気をつけてる。		

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	看護師を中心に清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に応じた自立支援に努めている。	尿意の曖昧な方が数名おられるので、ご本人の様子を見ながら、出来るだけトイレで排泄できるように声掛け、誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医の指示や飲食物の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めてはいるが、体調により、本人に合わせることもあります。	入浴日は火曜日・金曜日に設定し、職員を4人体制と厚めに配置して、安全に入浴できるように対応している。施設の敷地内で採れたゆずでゆず湯を行うなど、季節が感じられるような配慮もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので、気持ちよく眠れるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心になって、服薬支援をしている。		

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者に合わせて楽しめるよう、歌やレクリエーションなど工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には散歩などを行っているが、ホームの周知を散歩する事が多い。	季節には敷地内に植えられた樹々に花が咲き、天気の良い日には散歩をしながら楽しむ。花見や紅葉の時期には、マイクロバスで見学に出掛ける。	日常的な外出支援について、家族との連携により外出機会を確保すると共に、施設独自としても、買い物等への外出が行えるように整備されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進んで、普段お金を所持できないが、買い物等には行きたいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症が進んで自らはできないが、手紙などは読み聞かせをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な共同空間になるよう、日々心がけている。	共用の空間は、設え、色合い、家具や飾りつけ等からくる雰囲気すべてにおいて、家庭的で落ち着いたものになっている。こういった施設の雰囲気としては理想的なものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に部屋へ来訪も出来るように見守っている。		

自己評価及び外部評価票(陽気)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の部屋には、自分の物を持ち込み安心して居住している。	各居室、使い慣れた家具等が持ち込まれ、一人ひとり個性のあるお部屋になっており、まさに自宅といった雰囲気であった。こういった施設としては居心地の良さそうな理想的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が進んで、なかなか難しくなってきたが、一人ひとりを良く見守っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	災害や施設内外の事故等のリスクマネジメント等に関連して、運営推進会議において消防署、消防団、警察等と連携を図ることを期待したい。	災害、事故等、警察、消防等と連携を図る。	災害や施設内外の事故等のリスクマネジメント等に関連して、年2回程、消防署、消防団、警察等と連携を図りたい。	6ヶ月
2		行政の担当者に施設の現状を認識して理解を深めてもらい、より連携を深めていく上でも、運営推進会議への行政の参加が期待される。	行政よりの参加を願う。	運営推進会議への行政の参加を年、1回から2回、要請願いをしたい。	6ヶ月
3		今後について、利用者一人ひとりの力が更に生かされるように、季節や地域に馴染みのあるおやつ作り等を通して、準備、調理等を行いながら食を楽しむ機会を提供されることを期待したい。	季節感のある食事作り	食事を楽しむことができるよう、季節や地域に馴染みのあるおやつ作りや準備手伝いも合わせて、職を楽しむ機会を提供したい。	2ヶ月
4		日常的な外出支援について、家族等の連携により外出機会を確保すると共に、施設独自としても買い物等への外出が行えるように整備されることを期待したい。	家族にも協力を願う。	日常的な外出支援については、家族にも協力をお願いして、施設でも天気の良い日の外出に心がける。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。